

主の食卓に招かれた人は幸い



ミサ・感謝の祭儀の式次第
(説明付き)

ミサ・感謝の祭儀

『イエスは彼らに言われた、「わたしは苦しみを受ける前に、あなたがたとこの超越の食事をしようと、切に望んでいた。』』

ルカ 22:15

ミサは、カトリック教会において行われる最も聖なる祭儀です。この祭儀は、主イエス・キリストの最後の晩餐に由来しています。イエス・キリストは十字架に付けられる前の夜に行われた食事のとき、パンとぶどう酒の杯を取り、感謝の祈りをささげてから弟子に与えて、「これは、あなたがたのために渡されるわたしのからだである。これは、わたしの血の杯、あなたがたと多くの人のために流されて、罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血である。これをわたしの記念として行いなさい。」と言われました。これによって主イエスは、ご自分をささげられると同時に、ご自分の受難と死を予告され、その意義を説明されました。その時以来、キリストの教会は主イエスのことばに従って、救いをもたらしたキリストの死と復活を思い起こしながら、最後の晩餐の式を繰り返し、キリストの愛の奉献を記念することによって、それを再現しています。

信者はミサの間に、神のことばである聖書の朗読を聴き、この二千年前と同じ食卓にあずかり、キリストのからだである聖別されたパン（ご聖体）を拝領します。こうして、キリストの死と復活の記念であるこの祭儀に参加することによって、私たちを最後まで愛し、私たちのために御自分の命をささげてくださった主イエスに心を合わせ、愛の交わりを持ちます。

ミサ聖祭を祝うことによって、私たちは、神が与えてくださったすべての賜物、とくに創造、あがない（救いのわざ）、聖化に感謝します。それで、ミサは、「感謝の祭儀」とも呼ばれています。

ミサに参加することによって私たちは、神に感謝と賛美をささげ、キリストと共に自分自身を奉献して、神との完全な一致を目指します。そのために、ミサは神に対する真の愛の実践であるのです。

「私たちの救い主は、渡されたその夜、最後の晩さんの時に、自分のからだと血による感謝の祭儀を定められた。それは、十字架の奉献を主の再臨まで世々に永続させるため、または、愛する花嫁である教会に自分の死と復活の記念を託するためであった。この記念は、いつくしみの秘跡、一致のしるし、愛のきずなであり、キリストが食され、心は恩恵に満たされ、未来の栄光の先取りが与えられる過ぎ越しの祝宴である。」

（典礼憲章47）

開祭

☆（会衆起立）

1 入祭の歌と行列

2 あいさつ

司祭 父と子と聖霊のみ名によって。

会衆 アーメン。

司祭 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに。

会衆 また司祭とともに。

3 回心

司祭 皆さん、神聖な祭りを祝う前に、わたしたちの犯した罪を認めましょう。

司祭 全能の神と、

会衆 兄弟の皆さんに告白します。わたしは、思い、ことば、行い、怠りによってたびたび罪を犯しました。聖母マリア、すべての天使と聖人、そして兄弟の皆さん、罪深いわたしのために神に祈ってください。

司祭 全能の神がわたしたちをあわれみ、罪をゆるし、永遠のいのちに導いてくださいますように。

会衆 アーメン。

4 あわれみの賛歌

先唱 主よあわれみたまえ。

会衆 主よあわれみたまえ。

先唱 キリスト、あわれみたまえ。

会衆 キリスト、あわれみたまえ。

祭儀の説明

開祭に伴う儀式の目的は、一つに集まった信者が一致すること、また、神のことばを正しく聴き、感謝の祭儀を相応しく執行するために心を準備することである。

1 集まった会衆が司式者や奉仕者を迎え、感謝と賛美をささげる前に心一つにするために歌う。

2 祭壇は、キリストを表す象徴である。司祭と奉仕者が祭壇に向かつて礼をするのは、キリストに対する私たちの尊敬と愛を表すためである。

司祭はあいさつによってキリストが共におられることを意識させ、この日の典礼を説明する。

3 自分が弱くて、罪深い人間で、神に近づくには相応しくないことを認め、ゆるしを願う。ゆるしを受けて、清い心を持ってミサに参加する。

4 あわれみの賛歌は、主キリストに罪のゆるしを願う歌でもあり、またいつくしみ深い主をたたえる賛歌でもある。

先唱 主よあわれみたまえ。
会衆 主よあわれみたまえ。

5 栄光の賛歌

司祭 天のいと高きところには神に栄光、
会衆 地には善意の人に平和あれ。

われら主をほめ、主をたたえ、

主を拝み、主をあがめ、

主の大きいなる栄光のゆえに感謝し奉（たてまつ）る。

神なる主、天の王、全能の父なる神よ。

主なる御ひとり子、イエス・キリストよ。

神なる主、神の小羊、父のみ子よ。

世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。

世の罪を除きたもう主よ、われらの願いを聞き入れたまえ。

父の右に座したもう主よ、われらをあわれみたまえ。

主のみ聖なり、主のみ王なり、

主のみいと高し、イエス・キリストよ。

聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。

アーメン。

6 集会祈願

司祭 祈りましょう。（しばらく沈黙のうちに祈る）

・ ・ ・ 聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配

しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによつ

て。

会衆 アーメン。

☆（「聖書と典札」のしおりを参照）

5 ゆるしの恵みを喜び、神を賛美し、感謝する。聖霊のうちに集う教会は、この歌によって神なる父といけにえの小羊であるキリストをたたえながら、これから行われる賛美と感謝の祈りへと導く。

この賛歌のことばは他のことばに変えることができない。待降節と四旬節には歌わない。

6 沈黙の内に参加者は、自分の祈りを思い起こし、司祭はそれを一つの祈りに「集める」。この祈願によって典札の意義の性格が表現される。会衆は集会祈願に心を合わせ、それに同意し、応唱アーメンによって、この祈願を自分のものとする。

ことばの典礼

☆（会衆着席）「聖書と典礼」のしおりを参照

7 第一朗読

8 答唱詩編

9 第二朗読

10 アレルヤ唱

11 福音朗読

司祭 主は皆さんとともに。

会衆 また司祭とともに。

司祭 ……による福音。

会衆 主に栄光。

朗読

司祭 キリストに賛美。

会衆 キリストに賛美。

12 説教

13 信仰宣言

司祭 天地の創造主、

会衆 全能の父である神を信じます。父のひとり子、わたしたちの主

イエス・キリストを信じます。主は聖霊によってやどり、おと

めマリヤから生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受

け、十字架につけられて死に、葬られ、陰府（よみ）に下り、

三日目に死者のうちから復活し、天に昇って、全能の父である

☆（会衆起立）

☆（会衆着席）

☆（会衆起立）

ことばの典礼はみことばによるキリストとの出会いである。

聖書が教会で朗読される時には、神ご自身がその民に語られ、キリストはご自身のことばのうち現存して、福音を告げられる。

8 答唱詩編は、第一朗読のことばを味わい、黙想するための歌である。

10 「アレルヤ」は「主をほめたたえよ」の意である。それは、福音朗読を通して私たちに語りかける主を迎える歌である。

四旬節にはアレルヤ唱の代わりに詠唱が歌われる。

12 説教は、神のことばの説明である。福音書を中心に考え選ぶことで、キリストご自身の決定的な救いの秘義をよりよく理解することがその目的である。

13 参加者は、信仰宣言（「使徒信条」、または、「ニケア・コンスタンチノープル信条」）を行うことによって、神のことばに応える。

神の右の座に着き、生者（せいしゃ）と死者を裁くために来られます。聖霊を信じ、聖なる普遍の教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの復活、永遠のいのちを信じます。アーメン。

14 共同祈願

☆（「聖書と典札」のしおりを参照）

感謝の典札

15 奉納行列と奉納の歌

16 パンを供える祈り

司祭 神よ、あなたは万物の造り主、

☆（会衆着席）

ここに供えるパンはあなたからいただいたもの、

大地の恵み、労働の実り、

わたしたちのいのちの糧となるものです。

会衆 神よ、あなたは万物の造り主。

17 ぶどう酒の準備

18 カリスを供える祈り

司祭 神よ、あなたは万物の造り主、ここに供えるぶどう酒はあなた

からいただいたもの、大地の恵み、労働の実り、わたしたちの

いのちの糧となるものです。

会衆 神よ、あなたは万物の造り主。

19 清め

14 信仰を生きる（実行する）ために神の支えを求め、また、他人に対する関心や連帯性を示す。

共同祈願において信者は自分の祭司職の務めを果たす。

感謝の典札は、聖体によるキリストとの出会いである。

15 信者の代表は、奉仕者の迎えを受けて、神の恵みと人間の協力の実りであるパンとぶどう酒をささげ、頂いた恵みに感謝すると共に、自分を神にささげる。

奉納の行列が終わったら会衆は着席し、聖歌を歌う。その間に、教会の維持や支援を必要とする人のための献金が行われる。

16 司祭がパンとぶどう酒を神に供え、それをキリストのからだに血に変えていただくことによって、私たちが神の命を頂き、神性にあずかることができるように祈る。

20 奉納祈願

☆（会衆起立）

司祭 皆さん、このささげものを全能の、神である父が

受け入れてくださるよう祈りましょう。

会衆 神の栄光と賛美のため、また全教会とわたし自身のため

に、司祭の手を通しておささげするいけにえをお受けくださ

り。司祭・・・わたしたちの主イエス・キリストによつて。

会衆 アーメン。

奉献文 ・感謝の祈り・

21 叙唱前句

司祭 主は皆さんとともに。

会衆 また司祭とともに。

司祭 心をこめて神を仰ぎ、

会衆 賛美と感謝をささげましょう。

22 叙唱

司祭 聖なる父、全能永遠の神、・・・

・・・終わりなくほめ歌います。

23 感謝の賛歌

先唱 聖なるかな、

会衆 聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主。

主の栄光は天地に満つ。

天のいと高きところにホザンナ。

ほむべきかな、主の名によりて来たる者。

天のいと高きところにホザンナ。

奉献文は、救いのわざを想起し、それに感謝する祈りである。その中、祭儀全体の中心である聖別（聖変化）が行われる。

21 キリストご自身の現存のしるしであり、唯一の祭司キリストの代理者である司祭は、参加者に心を神に向けて、神に感謝と賛美をささげるように呼びかける。

22 叙唱において司祭は、聖なる民全体の名によつて、神である父の栄光をたたえ、救いのわざ全体のため、または、日、祝祭、季節に従って、それぞれの特別な理由のために感謝をささげる。

この祈りは、参加者に神に感謝と賛美をささげる理由を表すものにもなっている。

23 「感謝の賛歌」は、天使たちが天上で神に歌っている栄光と賛美の歌である。それを繰り返すことによつて、私たちは、天使たちと聖人たちの賛歌に声を合わせて、共に神の偉大さを誉め、救いのわざに感謝し、永遠の命の渴望と希望を強める。

群衆がイエスをエルサレムに歓迎した時に歌った言葉を付けることによつて、イエス・キリストは、天上で賛美されておられる神と同じ方であることと、これからパンとぶどう酒の形においてイエスご自身が来てくださることを宣言する。

24 第二奉献文

司祭

まことにとうとくすべて
の聖性の源である父よ、
いま聖霊によつてこの供
えものをとうといものに
してください。わたしは
ちのために主イエス・キ
リストの御からだと十御
血になりますように。

主イエスはすすんで受難
に向かう前に、パンを取
り、感謝をささげ、割つ
て弟子に与えて仰せにな
りました。

24 第三奉献文

司祭

まことに聖なる父よ、造ら
れたものはすべて、あなた
をほめたたえています。
御子わたしたちの主イエ
ス・キリストを通して、聖
霊の力強い働きにより、す
べてにいのちを与え、とう
といものにし、絶えず人々
をあなたの民としてお集め
になるからです。日の出る
所から日の沈む所まで、あ
なたに清いささげものが供
えられるために。

あなたにささげるこの供
えものを、聖霊によつてと
うといものにしてくださ
い。御子わたしたちの主イ
エス・キリストの御からだ
と十御血になりますよう
に。
主のことばに従つていま、
わたしたちはこの神秘を祝
います。
主イエスは渡される夜、パ
ンを取り、あなたに感謝を
ささげて祝福し、割つて弟
子に与えて仰せになりました。

奉献文（エウカリスチアの祈り）、すな
わち感謝と聖別（奉献）の祈りは、祭儀
の中心および頂点である。

聖霊の働きを求める祈り（エピクレシス）

この特別な祈りによつて、教会は聖霊
の力を願ひ求め、人々の供えものが聖と
されるよう、すなわち、キリストのから
だと血になるよう、また、これを拝領す
ることによつて、汚れのないいけにえ
が、それにあずかる人々の救いとなるよ
う祈る。

「皆、これを取って食べなさい。これはあなたがたのために渡されるわたしのからだ（である）。」

☆（会衆は司祭とともに合掌して深く礼をする。）

食事の終わりに同じように杯を取り、感謝をささげ、弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを受けて飲みなさい。これはわたしの血の杯、あなたがたと多くの人のために流されて罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血（である）。これをわたしの記念として行いなさい。」

☆（会衆は司祭とともに合掌して深く礼をする。）

「皆、これを取って食べなさい。これはあなたがたのために渡されるわたしのからだ（である）。」

☆（会衆は司祭とともに合掌して深く礼をする。）

食事の終わりに同じように杯を取り、あなたがたに感謝をささげて祝福し、弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを受けて飲みなさい。これはわたしの血の杯、あなたがたと多くの人のために流されて罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血（である）。これを私の記念として行いなさい。」

☆（会衆は司祭とともに合掌して深く礼をする。）

制定の叙述と聖変化

キリストの命令に従い、キリストご自身のことばを述べることよって救いのわざ（キリストの唯一の完全な愛の奉獻と過ぎ越しの神秘）が行われる。それは最後の晩餐の再現である。パンとぶどう酒の本質が変わって、キリストのからだとキリストの血となる。キリストがパンとぶどう酒の外観のもとに祭壇の上に自ら現存なさる。

救いのわざが今、ここで、過去のものではなく、現在のものになり、私たちがキリストを父である神にささげ、その奉獻にあずかることができるようになる。

聖体におけるキリストの現存は聖別のときに始まり、その形態が存在する限り続く。キリスト全体がそれぞれの形態のうち、またその部分のうち全体として現存される。したがって、パンを裂いてもキリストが分割されることはない。

25 記念唱

司祭 信仰の神秘。

会衆

主の死を思い、復活をた
たえよう、主が来られる
まで。

司祭

わたしたちはいま、主イ
エスの死と復活の記念を
行い、ここであなたに奉
仕できることを感謝し、
いのちのパンと救いの杯
をささげます。

キリストの御からだと御
血にともにあずかるわた
したちが、聖霊によって
一つに結ばれますよう
に。

世界に広がるあなたの教
会を思い起こし、わたし
たちの教父○○○○世、
わたしたちの司教○○
○、すべての教役者を
はじめ、全教会を愛の完
成に導いてください。

25 記念唱

司祭 信仰の神秘。

会衆

主の死を思い、復活をた
たえよう、主が来られる
まで。

司祭

わたしたちはいま、御子
キリストの救いをもたら
す受難・復活・昇天を記
念し、その再臨を待ち望
み、いのちに満ちたこの
とうといいけにえを感謝
してささげます。

あなたの教会のささげ
ものを顧み、み旨にかな
うまことのいけにえとし
て認め、受け入れてくだ
さい。御子キリストの御
からだと御血によってわ
たしたちが養われ、その
聖霊に満たされて、キリ
ストのうちにあつて一つ
のからだ、一つの心とな
りますように。

聖霊によってわたしたち
があなたにささげられた
永遠の供えものとなり、
選ばれた人々、神の母おと

25 記念とは、聖書的には、過去の出来事を単に想起することではなく、神が人間のために行われた偉大なわざを宣言することを意味する。これらの出来事を祝う典礼祭儀の中で、出来事は何らかの形で現存し、現在化される。

記念(アナムネシス)で教会は、イエス・キリストの受難、復活、昇天の記念を行い、私たちを御父と和解させてくださる御子のささげものを御父にささげる。

しかし教会は、信者が汚れのないいけにえをささげるだけでなく、自分自身をささげることを選び、キリストを仲介者として、日々神との一致と相互の一致の完成に向かい、ついには神がすべてにおいてすべてとなるようにと意図している。

(特定の死者の為のミサの場合、梓の中の死者の記念を唱える)

(きょう) この世からあなたのもとにお召しになった○○○○を心に留めてください。

洗礼によってキリストの死に結ばれた者が、その復活にも結ばれることができますように。

また、復活の希望をもって眠りについたわたしたちの兄弟とすべての死者を心に留め、あなたの光の中に受け入れてください。
なお、わたしたちをあわれみ、神の母おとめマリヤと使徒をはじめ、すべての時代の聖人とともに永遠のいのちにあずからせてください。

めマリヤをはじめ、使徒と殉教者、すべての聖人とともに神の国を継ぎ、その取り次ぎによって絶えず助けられますように。私たちの罪のゆるしとなるこのいけにえが、全世界の平和と救いのためになりますように。

地上を旅するあなたの教会、わたしたちの神父○○○○世、わたしたちの司教○○○○、司教団とすべての教役者、あなたの民となったすべての人の信仰と愛を強めてください。あなたがここに集めになったこの家族の願いを聞き入れてください。いづくしみ深い父よ、あなたの子がどこにいても、すべてあなたのもとに呼び寄せてください。

取り次ぎの祈りで教会は、この祭儀が天と地の全教会、生ける人、死せる人、また教会の牧者である教皇、教区司教、その司祭と助祭、ならびに全世界のすべての司教とその司教のもとにある教会との交わりのうちに行われていることを表明する。

司祭

会衆

御子イエス・キリストを通してあなたがほめたたえることができますように。

キリストによってキリストとともにキリストのうちに、聖霊の交わりの中で、全能の神、父であるあなたに、すべての誉れと栄光は、世々にいたるまで、アーメン。

(特定の死者の為のミサの場合、以下の死者の記念を唱える)

亡くなったわたしたちの兄弟、また、み旨に従って生活し、いまはこの世を去ったすべての人をあなたの国に受け入れてください。わたしたちもいつかその国で、いつまでもともにあなたの栄光にあらずかり、喜びに満たされますように。

主・キリストを通して、あなたはすべてのよいものを世にお与えになります。

(きょう) この世からあなたのもとにお召しになった○○○○(姓名)を心に留めてください。

洗礼によってキリストの死に結ばれた者が、その復活にも結ばれることができま

すように。キリストは死者を復活させるとき、わたしたちのみじめなからだを主の栄光のからだと同じ姿にしてください。

また、亡くなったわたしたちの兄弟、み旨に従って生活し、いまはこの世を去ったすべての人をあなたの国に受け入れてください。

わたしたちもいつかその国で、いつまでもともにあなたの栄光にあらずかり、喜びに満たされますように。

そのときあなたは、わたしたちの目から涙をすべてぬぐいさり、わたしたちは神であるあなたをありのままに見て、永遠にあなたに似るものとなり、終わりなくあなたをたたえることができます。

主・キリストを通して、あなたはすべてのよいものを世にお与えになります。

26 神の栄光への賛美が表され、会衆は応唱「アーメン」によって、司祭と共に神を賛美し、キリストが成し遂げてくださった救いの恵みをより豊かに受け入れるように心を開く。

交わりの儀

27 主の祈り

司祭

主の教えを守り、みことばに従い、
つつしんで主の祈りを唱えましょう。

会衆

天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。
み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおり、
地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしくください。

わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、
悪からお救いください。

28 副文

司祭

いつくしみ深い父よ、すべての悪からわたしたちを救い、現代
に平和をお与えください。

あなたのあわれみに支えられ、罪から解放されて、すべての困
難に打ち勝つことができますように。

わたしたちの希望、救い主イエス・キリストが来られるのを待
ち望んでいます。

会衆

国と力と栄光は、限りなくあなたのもの。

人間は、主イエス・キリストを受け入れ、主に従いながら、自分自身をイエス・キリストにささげることによって、主の愛の奉獻にあずかる。こうして、人は、イエス・キリストと交わることによって、父である神ご自身と交わり、永遠の命である神との一致が実現される。その意味で、**交わりの儀**においてキリストのからだである聖別されたパンを拝領することによるキリストとの交わりが、ミサの主な目的であるだけではなく、人生の目的でもある。

27 「主の祈り」は、神の心（望み）を表すので、それを唱えることによって、私たちは、自分の心を神の心に合わせる。

この祈りの中では日ごとの糧が求められているが、キリスト信者には日ごとの糧は、特にキリストのからだにおいて与えられる。また罪から清められるように祈り求められる。それは、聖なるものが、真に聖なる者に与えられるようにということである。その意味で、ミサの中で唱えられるこの祈りは、聖体拝領の直接の準備でもある。

29 教会に平和を願う祈り

司祭 主イエス・キリスト、あなたは使徒に仰せになりました。

「わたしは平和をあなたがたに残し、わたしの平和をあなたがたに与える。」わたしたちの罪ではなく教会の信仰を顧み、おことばの通り教会に平和と一致をお与えください。

会衆 アーメン。

30 平和のあいさつ

司祭 主の平和がいつも皆さんとともに。

会衆 また司祭とともに。

助祭 互いに平和のあいさつをかわしましょう。

☆（一同は合掌して「主の平和」と唱えながら相互に一礼する。）

31 平和の賛歌

先唱 神の小羊、

会衆 世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。

先唱 神の小羊、

会衆 世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。

先唱 神の小羊、

会衆 世の罪を除きたもう主よ、われらに平安を与えたまえ。

32 拝領前の信仰告白

司祭 神の小羊の食卓に招かれた者は幸い。

会衆 主よあなたは神の子キリスト、永遠のいのちの糧、あなたをおいてだれのところへ行きましょう。

司祭 主イエス・キリスト、あなたのからだと血をいただくことによつて、裁きを受けることなく、かえつてあなたのいつくしみ

により、心もからだも強められますように。」

30 私たちが主の平和を受けるのは、それを他の人に伝えるためである。キリストのからだである聖別されたパンをいただく前に互いに兄弟との和解と一致を祈る。

31 平和の賛歌は、会衆が神の小羊をたえる賛歌である。一致と愛のしるしである聖別されたパンを裂く間、参加者は平和を求めて歌う。

33 拝領

司祭 キリストのからだ。
拝領者 アーメン。

☆(会衆着席・以下のアナウンスに従う。)

34 拝領後の感謝

☆(拝領後、着席して沈黙のうちにしばらく祈る。)

35 拝領祈願

司祭 ……祈りましょう。(しばらく沈黙のうちに祈る)

☆(会衆起立・「聖書と典礼」のしおりを参照ください)

会衆 ……わたしたちの主イエス・キリストによって。
アーメン。

閉祭

36 お知らせ

37 派遣の祝福

司祭 主は皆さんとともに。

会衆 また司祭とともに。

司祭 全能の神、父と子と聖霊の祝福が十皆さんの上にありますように。

会衆 アーメン。

☆(会衆起立)

38 閉祭のあいさつ

助祭 感謝の祭儀を終わります。行きましょう、主の平和のうちに。

会衆 神に感謝。

39 退堂

聖体拝領前のアナウンス

「これから、ご聖体拝領と司祭の祝福が行われます。前列の方から順に、左右(中央)の通路にお進みください。

なお、ご聖体を受けられるのは、洗礼を受けたカトリック信者のみですが、司祭の祝福は、どなたでも受けられます。

祝福を希望される方は、ご一緒に並びになり、手を合わせたまま、司祭の前にお進みください。」

33 キリストのからだを受けることによつて信者は、キリストと一つになるために、キリストを受け入れたい、自分をキリストに奉獻したいという望みを表すと同時に、それを約束する。その意味で聖体拝領は、洗礼を受けたときに、神と結んだ契約の更新になっているので、洗礼を受けた人に限られている。

35 聖体によるキリストとの交わりを感謝する。

37 キリストから頂いた使命を果たすように神ご自身の祝福を与えられる。

39 参加者は、神を賛美し、たたえながらそれぞれの生活の場でキリストに従い、キリストの救いをのべ伝えるために派遣されたことを意識し、感謝する。

聖堂内のマナー(要約)

- 聖堂が聖なる場で、祈りの場であることを常に意識して、この場所にふさわしい行動をしてください。
- 聖堂内では静粛をお願いします。
- 携帯電話の電源は切ってください。
- 席においてある典礼聖歌、賛美歌集、教会の祈りなどを使うことができますが、持ち出すことはできません。使用后必ず元の場所に戻してください。
- 服装は神聖な場所にふさわしいものを着用してください。
- 普通の服装で大丈夫ですが、極端に短いスカートやノースリーブなどは聖堂内でご遠慮ください。
- 男性は帽子を取ってください。
- ミサの中で行われる聖体拝領（キリストの体となっている小さな白いパンを受ける儀式）は、洗礼を受けたカトリック信者に限られていますので、洗礼を受けていない方は、絶対に聖体を受けないでください。
- 聖体拝領ができない方は、司祭の祝福を受けることができます。祝福を希望される方は、案内にしたがって他の人と一緒に並んで、手を合わせたまま、司祭の前に進んでください。「祝福をお願いします」と言うこともできます。

カトリック南山教会
NANZAN CATHOLIC CHURCH
TEL (052) 831-9131
<http://nanzankyokai.net>